

事後調査の結果

調査項目 : 大気汚染

予測した事項 : 建設機械の稼働に伴う大気中における浮遊粒子状物質及び二酸化窒素の濃度、工事用車両の走行に伴う大気中における浮遊粒子状物質及び二酸化窒素の濃度

1 調査地域

調査地域は、対象事業実施区域の周辺約 200m を含む区域及び工事用車両の主な走行ルートに沿道とした。

2 調査手法

(1) 調査事項

① 予測した事項

ア. 建設機械の稼働に伴う大気中における浮遊粒子状物質及び二酸化窒素の濃度

イ. 工事用車両の走行に伴う大気中における浮遊粒子状物質及び二酸化窒素の濃度

② 予測条件の状況

ア. 建設機械の稼働に伴う大気中における浮遊粒子状物質及び二酸化窒素の濃度

建設機械の種類、規格、台数、稼働位置及び稼働時間、気象条件（風向・風速）

イ. 工事用車両の走行に伴う大気中における浮遊粒子状物質及び二酸化窒素の濃度

自動車交通量（一般車両、工事用車両、関係車両）、気象条件（風向・風速）

③ 環境保全のための措置の実施状況

(2) 調査時点

① 予測した事項

ア. 建設機械の稼働に伴う大気中における浮遊粒子状物質及び二酸化窒素の濃度

建設機械の稼働に伴う大気汚染物質の排出量が最大となると想定される12ヶ月（平成30年1月～平成30年12月）の4季節各1週間とし、以下に示す期間とした。

- ・ 春季：平成30年 3月 2日～ 3月 9日
- ・ 夏季：平成30年 7月22日～ 7月28日
- ・ 秋季：平成30年 9月19日～ 9月26日
- ・ 冬季：平成30年12月14日～12月20日

イ. 工事用車両の走行に伴う大気中における浮遊粒子状物質及び二酸化窒素の濃度

調査時点は、環境影響評価書（以下、「評価書」と言う。）及び事後調査計画書では4季調査を予定していたが、平成30年度より使用開始予定であったクリーンセンター専用路の使用開始が平成29年12月に早まったことから、事後調査では表1-1に示すとおり、1季節調査を追加して調査を実施した。

表 1-1 工事用車両の走行に伴う大気中における浮遊粒子状物質及び二酸化窒素の濃度

	調 査 時 期		クリーンセンター専用路状況
評価書及び事後調査計画書における予測時期	工事用車両（大型車）の走行台数が最大となる12ヶ月（4季）	平成30年2月～3月	クリーンセンター専用路使用開始前
		平成30年4月～平成31年1月	クリーンセンター専用路使用開始後
事後調査の実施時期	工事用車両（大型車）の走行台数が最大となる時期（1季）	平成29年8月～10月	クリーンセンター専用路使用開始前
	工事用車両（大型車）の走行台数が最大となる12ヶ月（4季）	平成30年2月～平成31年1月	クリーンセンター専用路使用開始後

ア) クリーンセンター専用路使用開始前（1季）

クリーンセンター専用路使用開始前の工事用車両走行ルートの時点（図1-3（32ページ）参照）において、工事用車両走行台数がピークとなる平成29年8月～平成29年10月の1季節1週間とし、以下に示す期間とした。

- ・ 秋季：平成29年 9月28日～10月 4日

イ) 工事ピーク時（クリーンセンター専用路使用開始後：4季）

クリーンセンター専用路使用開始後の工事用車両走行ルートの時点（図1-4（33ページ）参照）において、工事用車両走行台数がピークとなる平成30年2月～平成31年1月の期間中の4季節各1週間とし、以下に示す期間とした。

- ・ 春季：平成30年 3月 2日～ 3月 9日
- ・ 夏季：平成30年 7月22日～ 7月28日
- ・ 秋季：平成30年 9月19日～ 9月26日
- ・ 冬季：平成30年12月14日～12月20日

評価書及び事後調査段階での工事スケジュールは表1-2(1)～(2)に、工事山積表は表1-3(1)～(2)～表1-4(1)～(2)（17～23ページ）に示すとおりである。

平成29年度に1季調査を、平成29年度末～平成30年度にかけて4季調査を実施した。

表 1-2(1) 工事工程（変更後）

年 度			平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
本組合	新可燃 ごみ処理施設 (本施設)	準備工事				
		建築・ プラント 工事	土木工事（基礎工事）			
			建築工事（躯体工事・煙突設置工事）			
			機械設備工事			
			外構工事			
			試運転			
		供用開始				
日野市	日野市プラスチック類資 源化施設	建築・プラント工事				
	日野市クリーン センター新事務所	建築工事				
	日野市クリーン センター既存事務所等	解体撤去工事				
	クリーンセンター専用路の使用					

表 1-2(2) 工事工程（変更前）

年 度			平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
本組合	新可燃 ごみ処理施設 (本施設)	準備工事				
		建築・ プラント 工事	土木工事（基礎工事）			
			建築工事（躯体工事・煙突設置工事）			
			機械設備工事			
			外構工事			
			試運転			
		供用開始				
日野市	日野市プラスチック類資 源化施設	建築・プラント工事				
	日野市クリーン センター新事務所	建築工事				
	日野市クリーン センター既存事務所等	解体撤去工事				
	クリーンセンター専用路の使用					

表 1-3(1) 工事工程及び建設機械台数（変更後）

単位：台/日（日最大稼働台数）

[illegible]

大気汚染予測時期
北川原公園予定地
(整備予定区域)

騒音・振動
予測時期

騒音・振動予測時期
北川原公園予定地
(整備予定区域)

23

②予測条件の状況

ア. 建設機械の稼働に伴う大気中における浮遊粒子状物質及び二酸化窒素の濃度

ア) 建設機械の種類、規格、台数、稼働位置及び稼働時間

予測した事項と同じ時期とした。

イ) 気象条件（風向・風速）

予測した事項と同じ時期とした。

イ. 工事用車両の走行に伴う大気中における浮遊粒子状物質及び二酸化窒素の濃度

ア) 自動車交通量

予測した事項について調査を行う期間中のうち、クリーンセンター専用路使用開始前（平成29年9月29日）及びクリーンセンター専用路使用開始後（平成30年3月2日※）の各1日とした。

イ) 気象条件

予測した事項と同じ時期とした。

③環境保全のための措置の実施状況

予測した事項と同じ時期とした。

(3) 調査地点

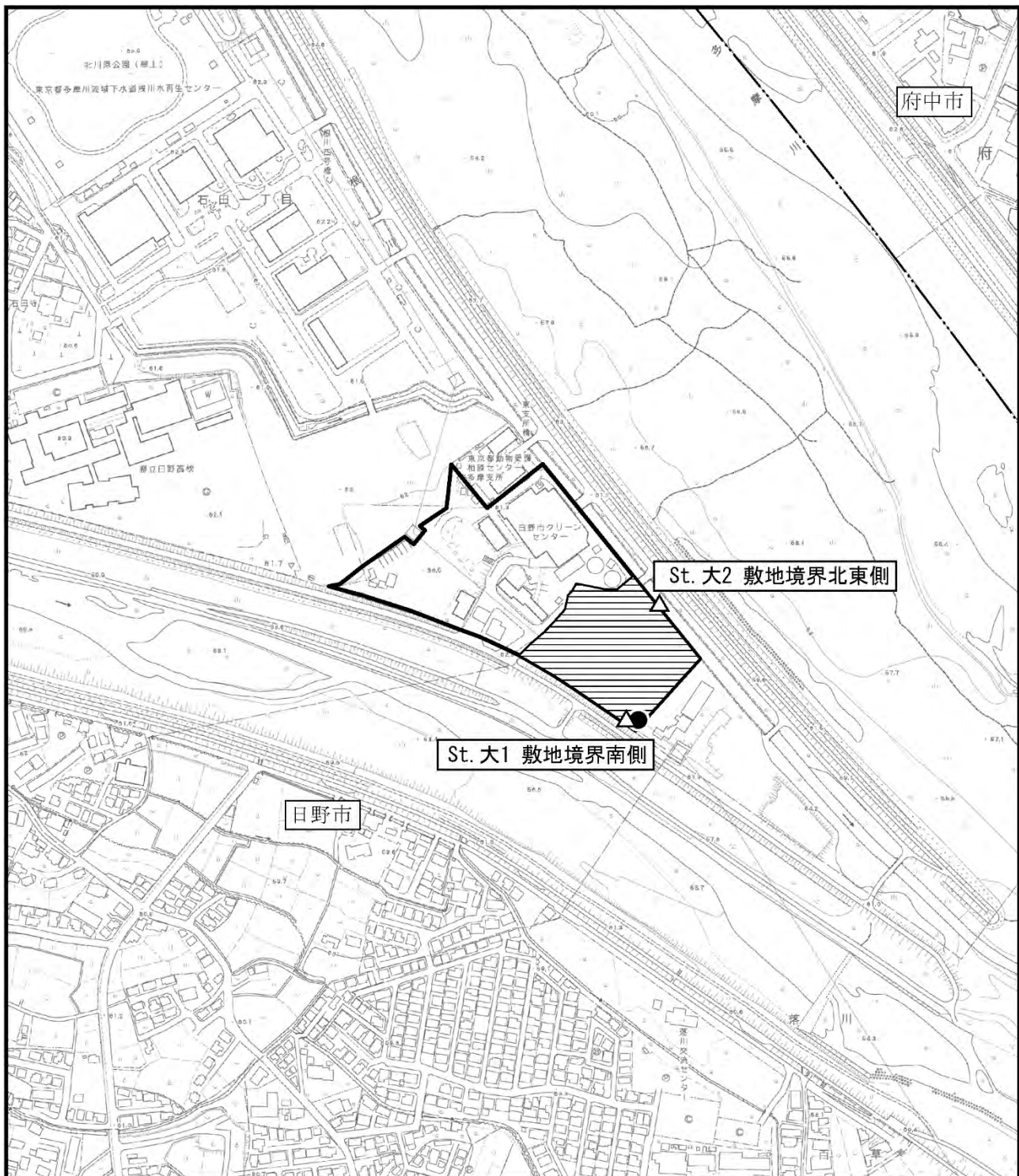
①予測した事項

ア. 建設機械の稼働に伴う大気中における浮遊粒子状物質及び二酸化窒素の濃度

公定法による測定は対象事業実施区域内1地点（着地濃度が最大となる対象事業実施区域南側（図1-1(1)（26ページ）参照）、簡易測定は対象事業実施区域内2地点（着地濃度が高まると想定される対象事業実施区域南側、北東側の2地点（図1-1(1)（26ページ）参照）とした。

事後調査では、評価書時点で想定していた既存事務所の解体がなくなったことから日野市プラスチック類資源化施設等の工事範囲を変更している（図1-2(1)～(2)（28～29ページ）参照）。また、日野市プラスチック類資源化施設等の工事開始が遅れたため、表1-5(1)～(2)（30ページ）に示すとおり、工事及び稼働する建設機械台数が、主に新可燃ごみ処理施設が中心となったことから、新可燃ごみ処理施設の施工範囲を中心として、主に南北の卓越風を考慮して、調査地点を再設定して調査を実施した。

※ 夜間（22時～翌6時）の交通量は、クリーンセンター専用路使用開始前の夜間の交通量から昼夜率を用いて算出している。



凡 例

□ : 対象事業実施区域

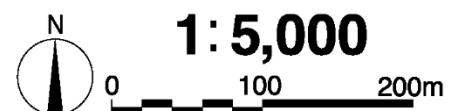
▨ : 建設予定地

— : 市界

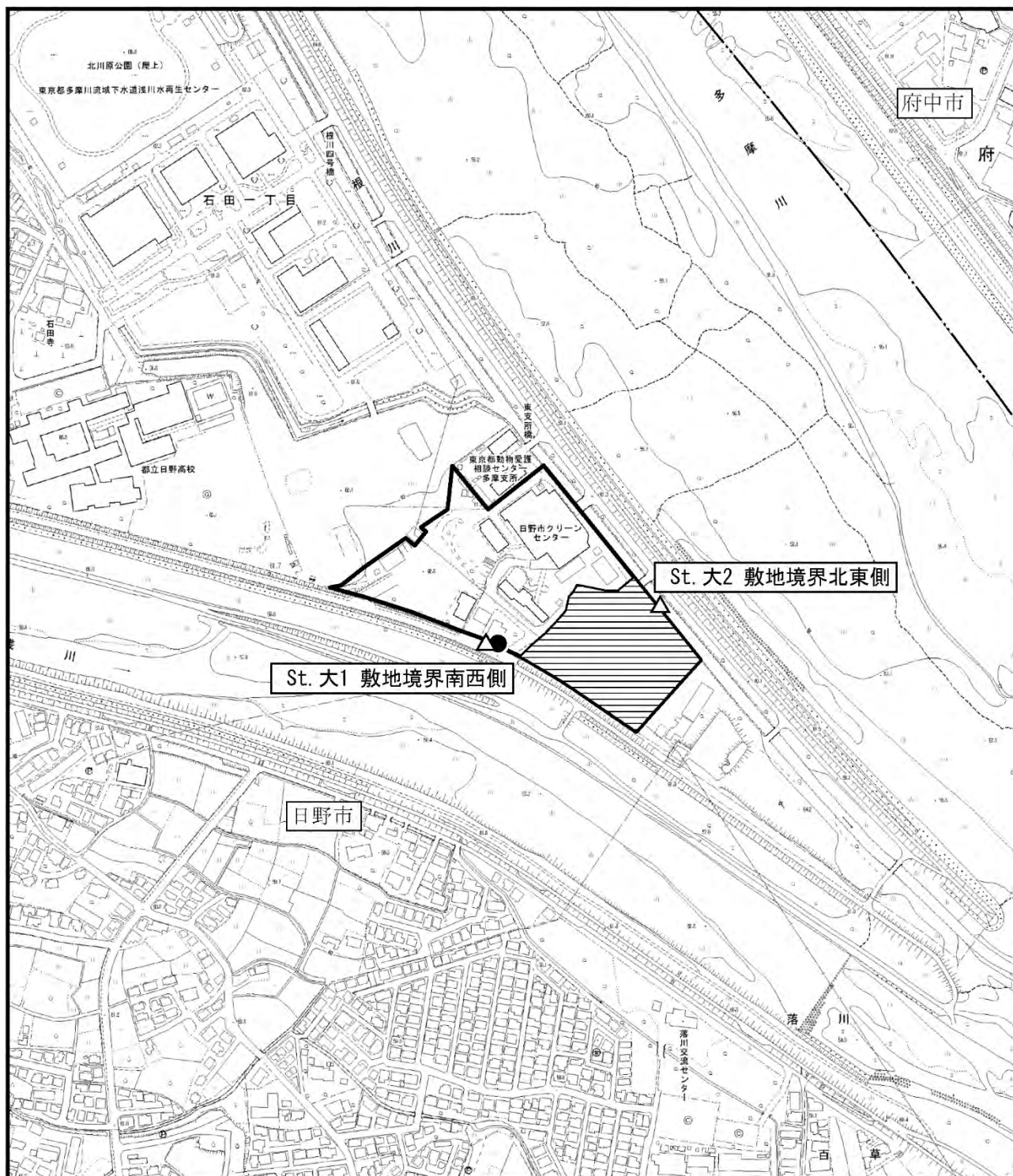
● : 大気質調査地点 (NO₂、SPM対象、St. 大1)

△ : 大気質簡易調査地点 (NO₂対象、St. 大1～St. 大2)

図 1-1 (1) 建設機械の稼働に伴う大気質調査地点 (変更後)



この地図は、東京都縮尺1/2500地形図 (平成27年度DVD版) を使用したものである。



凡 例

図 1-1 (2) 建設機械の稼働に伴う大気質調査地点 (変更前)

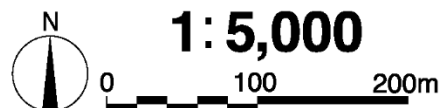
□ : 対象事業実施区域

▨ : 建設予定地

— : 市界

● : 大気質調査地点 (NO₂、SPM対象、St. 大1)

△ : 大気質簡易調査地点 (NO₂対象、St. 大1～St. 大2)



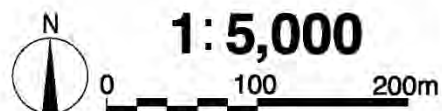
この地図は、東京都縮尺1/2500地形図 (平成27年度DVD版) を使用したものである。



凡 例

- : 対象事業実施区域
- : 施工範囲
- : 市界
- : 煙源位置

図 1-2(1) 施工範囲(事後調査時点における工事範囲)



この地図は、東京都縮尺1/2500地形図(平成27年度DVD版)を使用したものである。

表 1-5(1) 建設機械の種類及び稼働台数（表 1-3(1)に基づく稼働台数）

機 種	定格出力 (kW)	年間稼働台数（台/年）			
		本施設	日野市プラスチック類 資源化施設等		合計
			日野市 プラスチック類 資源化施設	袋倉庫棟	
バックホウ 0.25m ³	64	700	0	0	700
バックホウ 0.4m ³	64	575	225	0	800
バックホウ 0.7m ³	116	575	275	75	925
クラムシェル 0.7m ³	113	375	0	0	375
アースオーガ	60	200	0	0	200
オールケーシング掘削機	288	200	100	50	350
SMW 機	159	0	0	0	0
クローラクレーン 100t	204	400	75	0	475
クローラクレーン 200t	235	0	0	0	0
クローラクレーン 300t	253	0	0	0	0
ラフタークレーン 25t	193	250	75	75	400
ラフタークレーン 50t	254	500	0	0	500
コンクリートポンプ車 70m ³ /h	127	550	50	100	700
コンクリートミキサー車	213	700	50	100	850
合 計 （全体に占める割合）	—	5,025 （80%）	850 （14%）	400 （6%）	6,275 （100%）

表 1-5(2) 建設機械の種類及び稼働台数（評価書時点の稼働台数）

機 種	定格出力 (kW)	年間稼働台数（台/年）			
		本施設	日野市プラスチック類 資源化施設等		合計
			日野市 プラスチック類 資源化施設	新事務所	
バックホウ 0.4m ³	64	50	0	150	200
バックホウ 0.7m ³	116	500	475	75	975
クラムシェル 0.7m ³	113	150	0	0	150
アースオーガ	60	25	0	0	25
オールケーシング掘削機	288	25	100	50	175
SMW 機	159	25	0	0	25
クローラクレーン 100t	204	675	450	0	1,125
クローラクレーン 200t	235	300	0	0	300
クローラクレーン 300t	253	75	0	0	75
ラフタークレーン 25t	193	375	600	225	1,200
ラフタークレーン 50t	254	375	0	0	375
コンクリートポンプ車 70m ³ /h	127	525	375	175	1,075
コンクリートミキサー車	213	525	375	175	1,075
合 計 （全体に占める割合）	—	3,625 （54%）	2,375 （35%）	850 （13%）	6,775 （100%）

イ. 工事用車両等の走行に伴う大気中における浮遊粒子状物質及び二酸化窒素の濃度

ア) クリーンセンター専用路使用開始前 (1 季)

公定法による測定及び簡易測定は、多摩川右岸側市道の1地点 (図1-3 (32ページ) 参照) とした。

イ) 工事ピーク時 (クリーンセンター専用路使用開始後 : 4 季)

公定法による測定は、国道20号バイパス万願寺駅東、都立日野高校脇の2地点 (図1-4 (33ページ) 参照) とした。簡易測定は、工事用車両の主な走行ルート沿道6地点 (図1-4 (33ページ)) ※とした。

②予測条件の状況

ア. 建設機械の稼働に伴う大気中における浮遊粒子状物質及び二酸化窒素の濃度

ア) 建設機械の種類、規格、台数、稼働位置及び稼働時間

対象事業実施区域内とした。

イ) 気象条件 (風向・風速)

対象事業実施区域内とした。

イ. 工事用車両等の走行に伴う大気中における浮遊粒子状物質及び二酸化窒素の濃度

ア) 自動車交通量 (一般車両、工事用車両、関係車両)

(ア) クリーンセンター専用路使用開始前 (1 季)

工事用車両の主な走行ルート沿道の2交差点及び2断面、並びに対象事業実施区域への車両出入口付近2断面 (図1-3 (32ページ) 参照)

(イ) 工事ピーク時 (クリーンセンター専用路使用開始後 : 4 季)

工事用車両の主な走行ルート沿道の3交差点及び1断面、並びに対象事業実施区域への車両出入口付近2断面 (図1-4 (33ページ) 参照)

イ) 気象条件 (風向・風速)

対象事業実施区域内とした。

※ 調査地点 No は、事後調査計画書において、以下のとおり評価書から変更している。

「St.大 7 多摩川右岸側市道」(評価書) ⇒ 「St.大 3 多摩川右岸側市道」(事後調査)

「St.大 8 国道 20 号バイパス万願寺駅東」(評価書)

⇒ 「St.大 4 国道 20 号バイパス万願寺駅東」(事後調査)

「St.大 9 都立日野高校脇」(評価書) ⇒ 「St.大 5 都立日野高校脇」(事後調査)

「St.大 10 国道 20 号バイパス東」(評価書) ⇒ 「St.大 6 国道 20 号バイパス東」(事後調査)

「St.大 11 国道 20 号バイパス西」(評価書) ⇒ 「St.大 7 国道 20 号バイパス西」(事後調査)

「St.大 12 都道 503 号万願寺駅南」(評価書) ⇒ 「St.大 8 都道 503 号万願寺駅南」(事後調査)

「St.大 13 都道 503 号南」(評価書) ⇒ 「St.大 9 都道 503 号南」(事後調査)

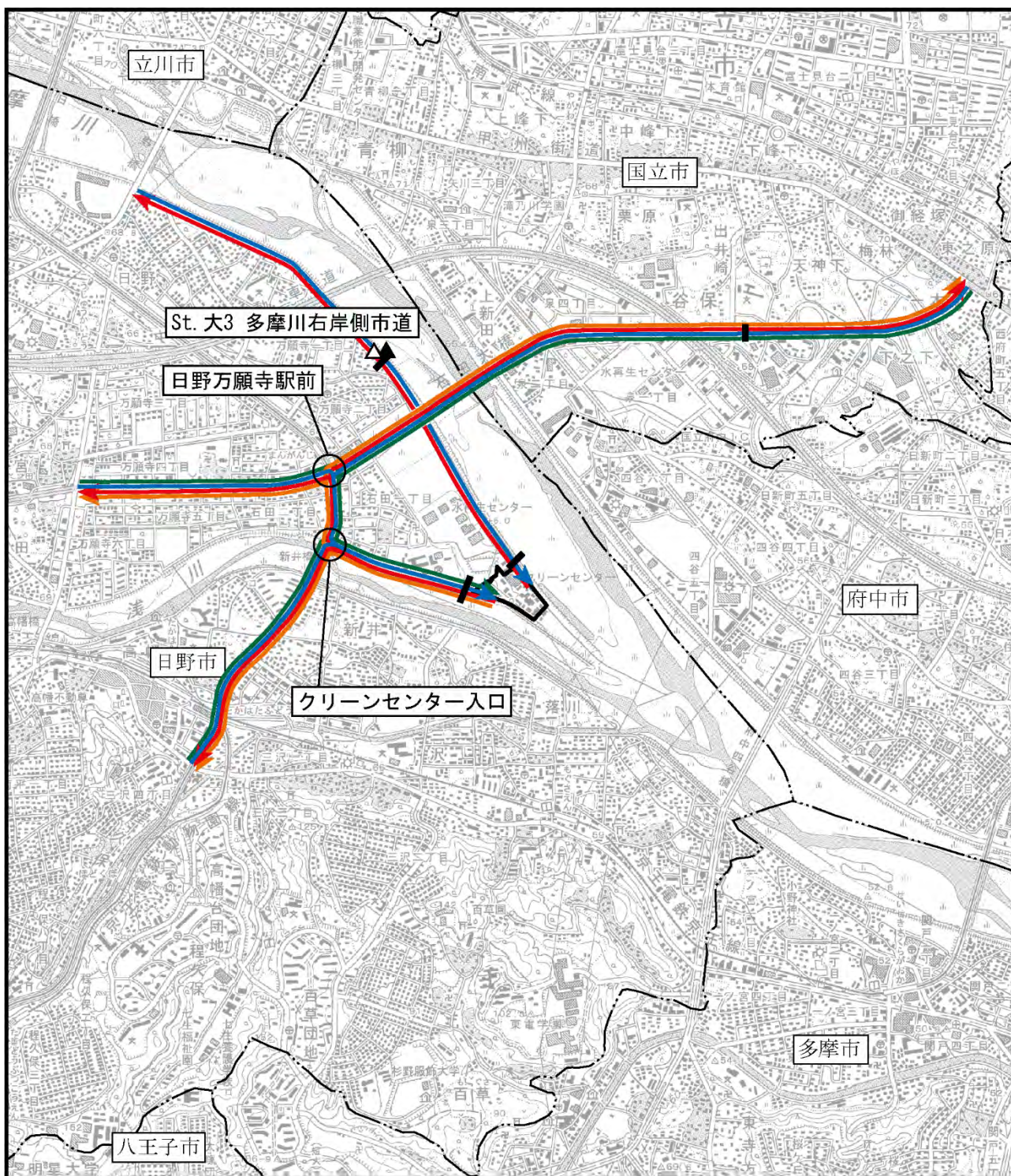


図 1-3 工事用車両の走行に伴う大気質調査地点
(クリーンセンター専用路使用開始前)

凡 例

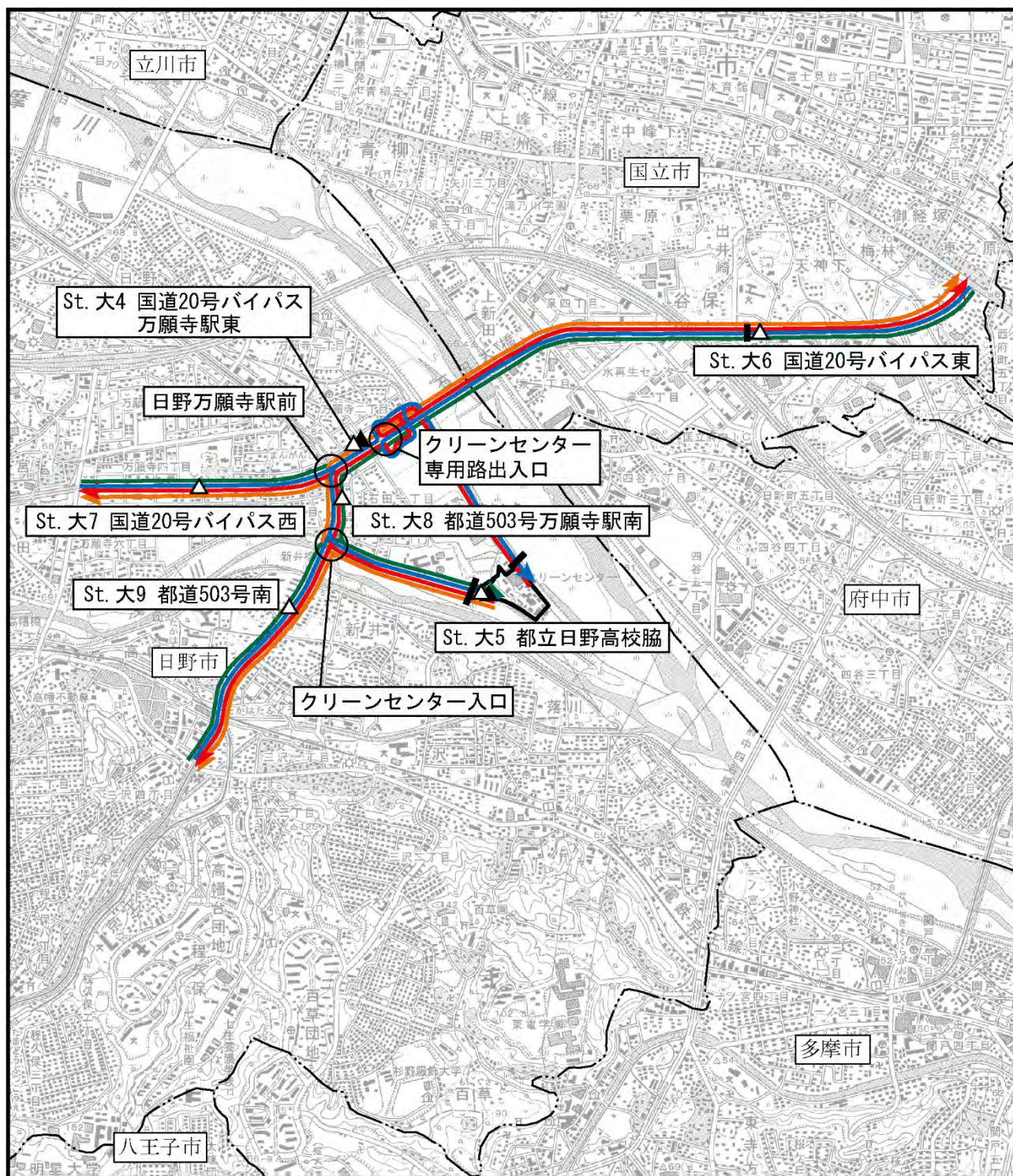
- : 対象事業実施区域
- : 市界
- : 交通量調査地点
- ▲ : 沿道環境大気質調査地点 (NO₂、SPM対象)
- △ : 沿道環境大気質簡易調査地点 (NO₂対象)
- (青) : 工事用車両(本施設関連)の主な走行ルート (入車方向)
- ← (赤) : 工事用車両(本施設関連)の主な走行ルート (出車方向)
- (緑) : 工事用車両(日野市プラスチック類資源化施設等関連)の主な走行ルート (入車方向)
- ← (黄) : 工事用車両(日野市プラスチック類資源化施設等関連)の主な走行ルート (出車方向)



1:25,000

0 0.5 1km

注) この地図は、国土地理院発行の2万5千分1地形図「立川、武蔵府中」を使用したものである。



凡 例

□ : 対象事業実施区域

--- : 市界

○ : 交通量調査地点

→ : 工事用車両(本施設関連)の主な走行ルート(入車方向)

← : 工事用車両(本施設関連)の主な走行ルート(出車方向)

→ : 工事用車両(日野市プラスチック類資源化施設等関連)の主な走行ルート(入車方向)

← : 工事用車両(日野市プラスチック類資源化施設等関連)の主な走行ルート(出車方向)

▲ : 沿道環境大気質調査地点 (NO₂、SPM対象、St. 大4~St. 大5)

△ : 沿道環境大気質簡易調査地点 (NO₂対象、St. 大4~St. 大9)

図 1-4 工事用車両の走行に伴う大気質調査地点
(クリーンセンター専用路使用開始後)



1:25,000

0 0.5 1km

注) この地図は、国土地理院発行の2万5千分1地形図「立川、武蔵府中」を使用したものである。

③環境保全のための措置の実施状況

ア. 建設機械の稼働に伴う大気中における浮遊粒子状物質及び二酸化窒素の濃度
対象事業実施区域内とした。

イ. 工事用車両等の走行に伴う大気中における浮遊粒子状物質及び二酸化窒素の濃度
工事用車両の主な走行ルート沿道とした。

(4) 調査方法

①予測した事項

ア. 建設機械の稼働に伴う大気中における浮遊粒子状物質及び二酸化窒素の濃度

浮遊粒子状物質濃度の測定は、「大気の汚染に係る環境基準について」（昭和48年環境庁告示第25号）に定める測定方法とした。二酸化窒素濃度の測定は、「二酸化窒素に係る環境基準について」（昭和53年環境庁告示第38号）に定める測定方法とした。

イ. 工事用車両の走行に伴う大気中における浮遊粒子状物質及び二酸化窒素の濃度

浮遊粒子状物質濃度の測定は、「大気の汚染に係る環境基準について」（昭和48年環境庁告示第25号）に定める測定方法とした。二酸化炭素濃度の測定は、「二酸化窒素に係る環境基準について」（昭和53年環境庁告示第38号）に定める測定方法及び簡易測定（フィルターバッジ法）とした。

②予測条件の状況

ア. 建設機械の稼働に伴う大気中における浮遊粒子状物質及び二酸化窒素の濃度

ア) 建設機械の稼働状況

現地調査及び工事日報等関連資料の整理による方法とした。

イ) 気象条件

「地上気象観測指針」（気象庁）に定める方法に準拠する方法とした。

イ. 工事用車両の走行に伴う大気中における浮遊粒子状物質及び二酸化窒素の濃度

ア) 自動車交通量（一般車両、工事用車両、関係車両）

方向別・車種別に1時間毎の通過台数をカウンターで計測する方法とした。

イ) 気象条件（風向・風速）

「地上気象観測指針」（気象庁）に定める方法に準拠する方法とした。

③環境保全のための措置の実施状況

現地調査及び工事日報等関連資料の整理による方法とした。